

骨子・構成案			内容	担当者
大	中	小		
はじめに				松本委員長
検討の経過について				
1 仙台市における現状 —文化・子育て—	1（1）仙台市における地域人材育成をめぐる現状（文化）			事務局
	1（2）仙台市における地域人材育成をめぐる現状（子育て）			
	1（3）まとめ			
2 地域における文化 に関わる人材育成	2（1）ネットワークへの支援（人材育成に関わる「プラットフォーム」の形成）	①「リアル」なネットワークの形成	・施設間の連携（市民センター，学校，児童館など）（例：荒町） ・団体との連携（社会学級，PTA関連）（例：愛子） ・市民が身近で相談しやすい環境づくり（ノウハウ，助成金など） ・情報交換や出会いの場の形成	
		②「デジタル」なネットワークの形成	・団体のデータベース化やアーカイブ化 ・情報の収集・共有・発信・活用	
	2（2）人への支援（「人材育成に関わる人材」の育成）	①「教える人」の育成（例：荒町）	・子どもに関わる専門性の形成 ・市民センターの講座など，市民の学習の場で活躍できる人材の育成	
		②「主体的に関わる人を育成できる人」の育成（例：愛子，ReRoots）	・普段の社会教育における活動や学習の中で人びとは成長するという視点が重要 →そのためには熟議のファシリテーターの育成が重要	
		③ネットワークを「つくったり」「活用できる」人材の育成	・リアル ・デジタル	
		④社会教育関係職員の力量形成	・社会教育施設や社会教育関係職員には，「人材育成に関わる人材」の育成や支援をすることが求められる。	
	2（3）活動への支援（「活動の魅力化」とその「発表」の「循環」の形成）	①「発表の場」の創出・増加を通した活動の維持・発展		
		②「活動の魅力化」の推進	・「発表の場」だけでは活動は発展しない ・活動の価値を発見し高める「学び」が重要	
		③活動場所となる施設の使いやすさの促進		
3 地域における子育て に関わる人材育成	3（1）ネットワークへの支援（人材育成に関わる「プラットフォーム」の形成）	①プラットフォームになる「場」の形成	・情報を共有したり，地域の人材や団体を「知る機会」の創出（例：岩切） ・市民が地域の中でお互いに「知り合い交流する機会」の創出（例：岩切） ・この「場」を通した「お互いさまの意識」の形成 ・市民センターの機能の周知	
		②「リアル」なネットワークの形成	・施設間の連携（市民センター，学校，児童館など） ・団体との連携（例：岩切） ・学校，家庭，地域の連携（例：生出） ・行政の各部署の連携の必要性(例：子ども劇場)	
		③「デジタル」なネットワークの形成	・団体のデータベース化	
	3（2）人への支援（「人材育成に関わる人材」の育成）	①コーディネーターの育成	・世代や所属を越えた「つながり」の形成が求められる	
		②活動の中心となるキーパーソンの育成	・「チャレンジ精神をもつ人」「何かやりたい人」を育成し支える仕組みづくり ・ボランティアスタッフの育成(例：子ども劇場)	
		③話し合いによる人材育成	・委員だけではなく多くの人びとが話し合いを通して，学びあう（例：生出）	
		④社会教育関係職員の力量形成	・社会教育施設や社会教育関係職員には，「人材育成に関わる人材」の育成や支援をすることが求められる。 ・「伴走者」	
	3（3）活動への支援（参加者の多様性と参加しやすさの促進）	①参加のハードルを下げる工夫	・活動する人びとが楽しむことで，イベントに参加しやすい雰囲気づくり（例：生出）	
		②多様な属性の人びとが参加できるための工夫	・自身の年齢や所属，保護者の就労の有無，子どもの年齢に関わらず気軽に参加できるための支援（例：きしゃぼっぽ）	
おわりに				松本委員長